

日本医療機能
評価機構認定病院



医療法人 幸生会

琵琶湖中央病院

病院だより

第134号

2022/3/15



2022年4月

～次のステージへ、新たなチャレンジ～

「琵琶湖中央リハビリテーション病院」スタート!!

「琵琶湖中央病院」では本年の病院創立40年に向けて、慢性期医療を提供する病院から、「回復期リハビリテーション機能」を提供する病院へ、中期4か年計画の取り組みを経て、2018年3月に全面的な医療機能の転換を行いました。引き続き、当院の医療機能の核であるリハビリテーションセンターの全面改修による機能訓練室の拡張とリハビリ機器の整備・充実に取り組み、3月には「免荷式歩行訓練装置」「高機能リハビリテーション設備」の導入、4月には退院後の日常生活を体験する「新ADLルーム」、6月には「（仮称）スカイガーデンリハビリテーション（琵琶湖を一望する屋上での機能訓練、園芸療法等）」が完成し3年に及んだ一連の工事が完了します。この工事と併行して建物の長寿命化対策としての外壁改修工事、非常用電源設備の設置等BCP（事業継続計画）の実践にも取り組んでまいりました。同時に、当院の役割をさらに明確にし、新たな決意を共有するための「全職員による新しい病院名創

り」に取り組み、全職員の投票により、「琵琶湖中央リハビリテーション病院」が選ばれました。今日までの、地域の皆さんから親しまれてきた愛称である「琵琶中」を引き継ぎ、「リハビリテーション病院」としてさらに進化させていくという全職員の思いが、「滋賀県（琵琶湖）の県庁所在地（中央）に位置する、リハビリテーションを提供する病院」を表す、「琵琶湖中央リハビリテーション病院」という新しい病院名を誕生させました。新しい病院名の下、「次のステージへ、新たなチャレンジ」を合言葉に、療養中の皆さんの生活を支えるリハビリテーション医療の質をさらに高め、名実ともに地域からよりいっそう信頼される病院へと、職員一同ここを新たに組み立ててまいります。

「琵琶中」から「琵琶中リハビリ病院」へと愛称を引き継いでいただき、今後ともご支援いただきますようお願いいたします。



病棟からこんにちは⑬

4A病棟の廊下に等間隔のアート（壁画）があります。実はこれにも重要な役割があるんです。今回は、考案者の病棟師長にインタビューしました。

Q.廊下に貼ってあるアート（壁画）には、どんな意味があるのですか？

閉鎖的な空間を少しでも開放的に、心穏やかに過ごせる空間を作っています。その他、歩行訓練などリハビリを行う際の目印に活用しています。同じリハビリをするなら、楽しく目に見える目標物があるとやる気が出ますね。

Q.このアート（壁画）を作成する際に工夫したことは？

歩行練習の目標にしやすいよう等間隔に配置して、目線が下になりすぎないように目の高さ近辺に小さいアートを施し、目線の流れを意識しました。

Q.このアート（壁画）を見て歩行練習した人の感想は？

「わー、きれいやなあ。白い壁観て歩くより、楽しいわ」と言っていました。その声を聞くと、やって良かったと思います。

気持ちが上がれば、リハビリもはかどる。環境の設定は、実はとても重要です。病棟を明るく清潔な空間として維持していくためのこういった少しの工夫が、誰かの目に止まって一助となれば、と思います。



園芸プロジェクト

★ 退院してから、その先の人生に貢献する ★

寒さが続く今年の冬、外来リハビリに通われるA様(70代・女性)にお話を聞く機会を得ました。A様は、左足に後遺症が残り、以前当院に入院されていた患者様です。入院時の面談で、作業療法士から「何ができるようにになりたいですか?」の問いに、真っ先に「畑ができるようになりたい」と答えられたそうです。退院してからの様子が気になったスタッフが、面談を行いました。

A様は、入院される前は大きな畑で作物を育て野菜やお漬物を近所やご家族に配り、喜ばれることを楽しみに生活されていました。ところが長い入院生活、しかもコロナ禍で様々な制限がある中、ストレスを抱えていました。リハビリが進み、歩いたりしゃがんだりができるようにはなったものの、前のように畑作業ができるのだろうか?と不安が募るようになってきました。

そんな中、作業療法士から園芸の誘いを受け、園芸療法に参加される事になりました。

そうして園芸療法を行うことになったA様。「入院生活で楽しみができるとは思いませんでした。園芸は最大の楽しみであり植物の成長に癒された上、他の入院患者さんとの共通の話題にもなりました」とのこと。そして、A様は一生懸命に育てた植物の成長を見届けながら退院されました。

園芸療法では、退院してからの畑の再開に向けて、リハビリ室でできるようにした動作の実践や、作業療法士からの動作の指導、足りない部分を補う工夫点を説明しました。そして退院時に、担当作業療法士から『今まで通りに畑仕事は可能』と伝えられた時には「大変な自信になりました。園芸の実践をしてなかったら、不安が大きくて退院後に再チャレンジできなかった。」と喜ばれました。

A様は帰ってから、草の生い茂る畑に驚かれたようですが、地道に草を引き、耕し、ついに冬には受傷前の規模で畑を行えるようになりました。「畑を再開することができ、入院中に園芸を本当にやってよかった。復帰できてよかった」とのお声を頂きました。“退院してから、その先の人生に貢献する”まさに当院が目指している園芸療法が達成されたのです。

歩けるようになる、しゃがみこめるようになる、その一つ一つの動作は大切ですが、その先の活動となると、より複雑になります。リハビリ室でできるようになった動作を実践し、専門的な視点でアドバイスを行うことは、大変な自信になり重要であることを再確認できました。生きがいの再獲得に向けて、ともに園芸療法を実践したスタッフにとっても大変嬉しいことでした。

リハビリ療法部 係長 作業療法士 山本 紘平



知っ トク

認知症の予防には「運動」が重要なんです!

適度な運動は脳神経の機能を促進することが脳研究で明らかになってきました。脳科学の世界で有名なジョンレイティ医学博士の著書『脳を鍛えるには運動しかない』でも詳しく書かれています。

適度な運動(6割くらいの力)をすることで、脳の記憶に関わる神経(海馬)を新しく生み出す手伝いをしてくれることがわかりました。筋肉からIGF-1というホルモンが分泌され海馬の神経に良い影響を与えてくれるのです。逆に運動不足で肥満気味の方は認知症になる確率が普通の方と比べて2倍高くなります。

私たちの想像以上に頭と体はつながっているのですね。運動は有酸素運動が良いとされていて、ウォーキングや自転車こぎを30分程度、週3回続けると効果が期待できます。

勉強ばかりして運動しないお孫さんがおられましたら、ぜひ散歩に誘ってあげてください。成績が向上するかもしれません。

リハビリ療法部 課長 理学療法士 河野 寧夫



IGF-1

- 【参考文献】
- ・ジョンレイティ『脳を鍛えるには運動しかない』NHK出版
 - ・三上俊夫『記憶力低下とうつ病の予防に対する運動の効果 海馬の神経新生から考察する』日本医科大学医学会雑誌2012.8
 - ・丹信介『運動生理・生化学の視点から認知機能改善エクササイズを考える』認知神経科学, Vol.17, No.3-4, 2015

医療相談のご案内

「健康福祉事業課」は患者様や地域の方の医療福祉に関するご相談に専門の職員(社会福祉士)が対応させていただきます。お気軽にご利用ください。

◎健康福祉事業課
Tel.(077)526-2131
平日9時~17時

《病院周辺》 「名所旧跡」散歩道

膳所城ゆかりの杜寺等 ~和田神社~

本殿は鎌倉時代の建築で重要文化財。境内のイチョウは高さ24m、樹齢600~650年と推定されています。表門は、文化5年[1808年]に創建された膳所藩藩校遵義堂の門を明治維新以降に移築したものです。

(膳所公園 城下町 膳所案内絵図より)

♪つぶやき♪

今回の病院だよりは執筆者の思いが溢れて、裏も表も長文になってしまいました。まとめきれずにすみません。少しでもスタッフの熱い思いが届けば…と、このまま発行に踏み切りました。…届きましたか? (健康福祉事業課) ©2022医療法人幸生会 琵琶湖中央病院

